

KSKP
No. 6



パンジー
だより
川西ひでこ

発行 1994年3月

編集 クリエイトハウス
“パンジー”

パンジー報告

近頃、人々が交わすあいさつに「暖かくなってきましたね」という言葉がきかれるようになりました。確実に春はやってきました。

パンジーにも2度目の春がやってきました。この1年あわただしく過ぎていきました。今回はパンジーでみんなが楽しみにしているレクリエーションについて書きたいと思います。これは、月に一度いろんな場所にガイドヘルパーの人とマンツーマンで出かけて行こうというものです。行き先は、みんなの「どらえもん会」でいきたい所を話し合って決定します。

第1回目は7月第1土曜日、場所は長居のスポーツセンターでした。初めてということで、どうなるのだろう・・・との不安をよそに終わって帰ってきたメンバーの顔は実に満足げ。ヘルパーの方々からは「また、参加したい。」といううれしい言葉がきかれました。私はおもわずホッとためいき。続いて8月には海遊館、9月は花園で行われた元気シティというイベントに参加しました。

こうして回数を重ねていくうちに、少なかったヘルパーの数も増えてきて何度か来てくれている人はみんなとの関わりがだんだん深いものになってきました。これは、パンジーでの仕事の中にみんなが楽しそうにヘルパーの名前をだして話していることからわかります。この結びつきを大切にしたい・・・と思っています。

でもレクリエーションは、始まったばかりで課題もいろいろ残されていますがこの活動によってたくさんの人達と接する機会ができ、外に飛び出していくことができる。これを手がかりとして社会の人達との関わりが広がっていけば最高ののになあと、理想はつきない今日このごろです。

(はま)



パン部門のなかまたち

こんにちは、パン部門です。さて、パンジーがオープンして2度目の春がやってきます。パンジーのオープンから遅れること2ヶ月、6月からスタートしたパン部門も、機械の使いかたがわからなかった時期、パンがふくらまなかった時期、暇な時期、忙しかった時期などを経て、すこしは落ち着いてきたのかなあなどと考えたりしています。けれども、これから先のことを考えるといろいろな課題が山積みになっています。たとえば、駅前でパンの屋台を出すといったようなことや、あたらしいパンやクッキーの開発、メンバーがやりやすい仕事の工夫および考察など、あげればけっこうごろごろと出てきます。こういった、1年目ではあとまわしにされていた事の数々に2年目は、本格的に取り組まんとあかんのやろなあと思っています。2年目、パン部門がどうなるかは、神のみぞ知るといった感じですが、皆様どうか温かい目で見守って下さい。

(よしたけ)



軽作業のなかまたち

早いもので、パンジーは1年目を終えようとしています。そこで、毎日作業室でがんばっているみんなに、1年間の感想を聞いてみました・・・。

U君「もう1年か。早いなあ。内職、いっぱいあったらいいのに。」

Mさん「紙袋あまり好きちゃう。ファンヒーターの組立てやりたい。力仕事ないかなあ。」

Fさん「紙袋、楽しい。」

A君「スッキリハンガーの組立て作業が大好き。」などなど、の感想がでました。A君の言うスッキリハンガーとは、せんたくばさみの作業ストップ(売れ行きが悪いので)に変わり、新たに軽作業に加わったものです。

また、2年目を迎え軽作業では、さおり織りが復活します。みんながいろんな想いで織ったさおりを、カバンや小物、服などの製品にし、販売していきたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

(おがわ)

厨房のなかまたち

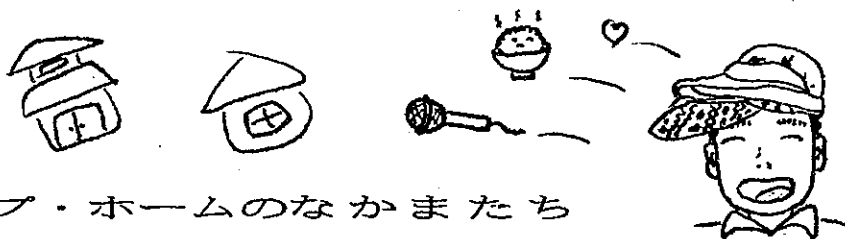


さて、前々回のニュースが第1回目、そして今回が第2回目となった厨房のなかまたちシリーズ。今回は、“ぜにがたあ〜へいい〜じい〜♪”と歌いさげびながらおどっている（最近は、“ぜにがたあ〜へいい〜じい〜♪”と歌いさげびながらおどってないけど）厨房の仕事を実によくやってくれる彼を、紹介したいと思う。

“ぜにがたあ〜へいい〜じい〜♪”と歌いさげびながらおどっている彼をつかまえ、銭形平次も自分の名前を呼ばれながらおどってもらっているなんて思ってもいないであろうことを感じながら、ゴミほりやテーブルふきを頼むのである。

しかし、彼をあまりに使いすぎて逃げられることが最近では少なくなったのだが、以前にはよくあった。そんな時、彼はすばらしいスピードとすばらしく大きな声でどこかへと去って行ってしまいうのである。その彼の走るスピードはカール・ルイスよりもベン・ジョンソンよりも速く、その声はスイスのどこかのヨーデリアン(?)や、イタリアのオペラ歌手よりもよく透っているであろう。

しかし彼は、一分もたたないうちにブーメランのごとく食堂へ舞い戻ってきてしまうため、結局、私にコキ使われてしまうのであった……。 (ゆきめ)



グループ・ホームのなかまたち

グループ・ホームではいろいろなことをしたりしています。もうにぎやかなグループ・ホームです。しょくじごはんやよるごはんたべながら、おはなしをしながらごはんをたべたり、やはりグループ・ホームのほうがいいです。いえではひとりぼっちでさびしい。がいしょくでごはんをたべたりしていました。いろいろなところにいたりしていました。ほんやさんにいたりからおけにいたりうたいにいたりをしました。またみんなでからおけやがいしょくにいたりをしていました。またみんなでいろいろなところにいたりしていました。

これからはみんなであそびにいきたいとぼくたちやみんなでけいかくたててみんなであそびにいきたいとぼくたちはおもいます。ぼくたちやみなさんたちでいろいろなところけいかくをたててみんなであそびにいきたいとぼくたちもはやくみんなであそびにいきたいとおもいました。 (かずお)

パンジーに関わる人々



パンジーでみんなの写真を写してもらっている写真家の未来さんに話をお聞きしました。

Q：パンジーの第一印象は？

A：一言でいって「居心地」がいいっていうんでしょうか……。初めてのところにくると、何となく緊張するでしょう？ でもここは、入ってすぐにその緊張感がなくなって、弛んでしまった、という感じがします。

Q：なんででしょう？

A：なんででしょう？。それがボクにもよく分からないんです。

Q：まあ、そうおっしゃらずに3つほどひねり出してみませんか？

A：う～ん、ボク、人見知りがはげしいんです。それで、普通はなれるまで、1年ぐらいかかるんですけどね……。う～ん。困った……。あ！ こうしといたらいんじゃないですか。「ここにいる人がみんないい人だから……」ってね。

Q：さらっと聞き流して、つぎのお答えにまいりましょうか。

A：なんででしょうかね……。やっぱり規制が少ないのかなあ。ボクから見ればそんな風にうつります。

Q：それでは、最後のお答えは？

A：2つ目に関連するのですが、それぞれが、「自由」に、はっきりいえば「かってに」やっているように見えるところですか……。実をいえばボクの1番気に入っているところは、この「自由」ということなんです。ボクの仕事の写真も、ボクがかってな想いで写して、それを見る人が、かってな想いで見ることができるから好きなんです。

がくしゅうコーナー



「障害」って、なあーんだ (2) by 牧口いちじ

いつの頃からでしょう、障害をもつことを「足が悪い」「目が悪い」「耳が悪い」などと表現しています。おもしろいのは「口が悪い」「頭が悪い」「手(くせ)が悪い」などは別の意味で使われることの方が多いようです。障害をもつことが、そんなに悪いことなのでしょうか。「足が悪い」と言われ続けて生きてきたボクは、つい考えてしまいます。

そこで、国語辞典の「悪い」にはどんな説明がしてあるのか、調べてみました。わるい【悪い】①道徳的に責められる様子。②好ましくない結果をもたらす様子。③好ましくない状態。④標準より劣っている状態。⑤正常な働き(状態)を失っている様子・・・と書いてありました。

なんとビックリ、世の中が考えている障害観や障害者観に、ほぼドンピシャリではありませんか。④と⑤はそのものズバリだし、②と③も、おそらく世間ではそう思っているでしょう。①が少し違うように思いましたが、これも考えてみると、じつに関係が深いようです。

なぜか、現代でさえ障害をもつ子が産まれると隠し続ける親や家族がいます。なぜ隠すのかといえば「家の恥」と考えているからです。また、障害児を産んだ母親が肩身の狭い思いを強いられるのは、なぜでしょう。その上、障害者自身の中にも自分の障害を「恥ずかしい」と思っている人がいます(本当は周囲から思わされていくのですが・・・)。これらの心理状態は①との関連で引き起こされます。

このように見えてくると、今まで障害をもつことを「〇〇が悪い」と表現してきたことは、くやしいことですが、まったく自然で、しかも生活実感から出てきた、率直で、わかりやすい活きた言葉だったように思えてきます。日常生活で人びとが会話の中で何気なく使っている言葉は、じつは正直で、その時々時代の背景を、物の考え方を、その時代の価値観を見事に反応しているからです。

さあ大変、「悪い」という価値観そのものを変えなければ、障害者は浮かばれないようです。国語辞典の中に(「悪い」の説明の中に)気になる言葉がいっぱい出てきます。並べてみると……「道徳的・好ましい・標準・劣っている・正常な」。いったい、何が標準で何が正常なのでしょう。新しい「障害」観を創出していくためのキーワードは「異常のどこが悪い？」だと思います。(つづく)



どらえもんかいでしたいこと

梅原義教

どらえもんかいでぼくは、大きくなってみんなで、がいこくへいきたいなあ。
ぼくは1かいみんなでこうしえんへいきたいなあ。1かいみんなでみたいなあと
ぼくはおもっています。みんなでおかねためてなにかしたいなあ。

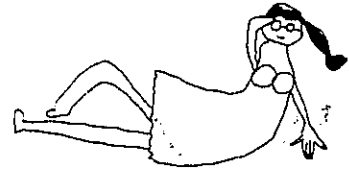


なかま会 静岡会議からかえって

- 聞く人 : なあ、静岡どうやった? 生田さん?
- 生田さん : そりゃあ……よかったでえ。
- 聞く人 : なにがそんなによかったん? はは～ん、1杯飲んだってわけや。
- 生田さん : そうや、カラオケ大会で、飲んで歌って話して、そおして、ごつつお食べて、それはそれは楽しかったわ。
- 聞く人 : それはよかったなあ。それでかんじんの会議の方はどうやったん?
- 生田さん : ピープルファースト会議を日本でこしらえよか、という話をしたんや。
- 聞く人 : それでやることにしたん?
- 生田さん : まだ決まってはいないけれど、そんな話が出たんや。
- 聞く人 : それで会議に出てどんな気持ちやった?
- 生田さん : ボク、幸せやった。
- 聞く人 : なんで?
- 生田さん : ボク、役員に選ばれたんや。みんながやりたいうてな……。
みんなで11人の役員が選ばれたんや。
- 聞く人 : そうか。生田さんは、役員いうのんになるのは、はじめてやったん?
- 生田さん : そうや、ボク、1回やりたかったんや。
- 聞く人 : 生田さん、ほんまに幸せそうで、こっちまでなんや楽しんてきたわ。
どうもありがとう。

シリーズ：わたしの横にいて！

二文字理明さんの講演の感想



去る2月10日、スウェーデンに長らく滞在されていた二文字理明さんをお招きし、「スウェーデンの知的障害者について」というテーマで座談会をもちました。二文字さんが翻訳された『人間の尊厳』（知的障害者のケアに携わっている人、および知的障害者の代理を務める人、たとえば本人の両親、後見人、ソーシャル・ワーカー他のために書かれたスウェーデンの本）を読んでびうぐり仰天。心にずーんと響いたのが、

『すべての人に同一のルールが適用される』。

パンジー開所当時のこと、突然「誰もいないの！」という訪問者の声に、見まわせば、知的障害を持つ我らの仲間が大勢いて、「なんで～知的障害者を見てないのだ」とたまげたことがあり、「同一のルール……」のところに到るまでの道のりの長さを想像し「う～む」とうなった事をおもいだす。今、本当にそのことを実行しようとしたら……「前途多難どころか不可能じゃないですか！」。

そんな寒々しい心で参加したわたしに、まだまだこの座談会は、スウェーデンという異次元、異空間でなされている信じられない現実や、なされようとされていることなどが話題にのぼりました。たとえば、

- ・スウェーデンでは、知的障害者の送り迎えは、なんとあの8人乗りのベンツ。
- ・スウェーデンの知的障害者のグループ・ホームは、それぞれが玄関と台所を合わせ持つものを意味する。

「エ～ッ、先生！ ちゃかしっこ、なしよ！」。日本での自分の暮らしがパーと目の前を横切る。そのとき、「自分が要求できない人には、最高のものを用意しなければならないからです」と先生のおことば。並の物ではどんどん壊れていく様をみて、“頑丈な物でないとはダメだよな”とかねがね思っていたわたしは、「最高のものって頑丈なものネ」と簡単に納得。それでもやっぱり「人間は、こうあるべきだ」と感じたことを理念として明文化し、それに向かって、実現させる力はすごいなあと感じました。

最後に「僕らはみんなどうしようもない人間だから、せめて、いろんな機会をとらえて感受性を鈍らせないようにしなければ……」の中の「僕」へのウエイトの置き方に、遠くの理念に向かって確実に歩まれる姿をしらされ、この理念に向かってわたしも歩いていくのだという、ちっちゃな決意をしまっている自分がいるのでした。

(ひろ)

ザ・ガイドヘルパー



私がパンジーの存在を知ったのは昨年9月4日、5日に行われた全障連大会の知的障害者の仲間の分科会だった。私は会場係をしていて、分科会のOHPをしたり、休憩の間は見学したりしていた。

この時にドラえもん会やピープルファーストの話が出たのだ。

私が一番驚いたのは、パンジーの皆様は自立への意見をしっかりとっていた事だった。

この1カ月後、パンジーに見学に行かせて頂き、パンジーの皆様に出会う事ができて感激した。

それから、ガイドヘルパーを始め、今回で6回目くらいになった。

今まで、ボランティアや学校の実習などで障害を持った人達に接した事は多くあったが、やはり初めて接する人には、不安があり、事故を起こしてしまわないだろうか、自分が原因でペアの人が不機嫌になってしまわないだろうか、お互いうまくコミュニケーションがとれるかなど心配していた。

しかし、パンジーの皆様は、とても明るく人なつっこい人が多く、接しやすく、いつも会う事を楽しみにしている。

今回のレクリエーションは、はいから村に行った。ここには、プール、大浴場、カラオケなどの設備があり、誰でも楽しめるような所だった。

私のペアだった生田さんや東くんはプールよりカラオケがすきなようで、カラオケに行った。みんなとても楽しそうで、帰る時間を忘れ、皆様に迷惑をかけてしまいました。帰りのマイクロバスの中でも、よほど楽しかったのか、歌を歌い出したら止まりませんでした。私自身もとても楽しかったです。

しかし、私自身、ヘルパーとしての課題が多く、この日も時間を忘れてしまったし、重い障害を持った人とは、今だにコミュニケーションがとれないので、それができるようにこれからも勉強して、克服していきたい。

(北村)

南海電車に乗ったこと

東 (安子) 到央郎

2月5日はいから村に行きました。ほんで来月のスポーツ観戦どこ行くか干っしんと相談しました。林さんに「女プロのぞくのだったら行くな」って言われました。

そこでは制服やらジャージに着替えます。男子は上下に分かれた物で女はドレスでした。昼御飯が「御金出したら俺も半分食べて惟々か」って言うと西尾(幸)さんは「あんたが出してくれんの」って言いました。

俺がすごい男の歌歌っている最中にヘルパーさんが「もう皆集まってるぞ」って言いました。御土産にセーラームーンRのペンダントと指輪を買いました。福田さんをカラオケに誘っても断られたので、代わりに西尾さん探しました。

俺だけ電車で帰りました。ところが岸の里玉出で乗替えなあかん事知りませんでした。帰る時吉田さんの家が見えると思いました。

あなたもガイドヘルパー活動をやってみませんか!

パンジーの仲間は、自立生活部門のレクリエーション活動を利用することで、余暇を有意義に過ごし、また、閉ざされがちな人間関係を広げる機会を得ています。その人の生涯で、一緒に時を過ごす人が、親、兄弟、親類縁者と学校、施設の友人、職員だけだったなんていいわけありません。「うん、そや、そのとうり!」と思わず合づちをうったあなた! 下記の予定表を充分検討の上、電話をしてください。

予 定

- 4月 2日(土) ……動物園または散歩
- 4月30日(土) ……オープンハウス
- 5月 8日(土) ……ふれあい祭り
- 6月 4日(土) ……外出 活動
- 7月29日(金) ……夏の旅行
- ~ 30日(土) 神戸しあわせの村



書き損じハガキ、切手を待っています!

御家庭や会社などで、年賀状の残り、書き損じたままのハガキ、貼ったままでスタンプを押していない切手など眠っていませんか?

自立生活部門ではこれらを集めて活動資金に充てたいと思っています。引き出しの片隅から、御協力をお願いします。

御協力ありがとうございます。

＜カンパ 寄付金をいただいた方です＞ (敬称を略させていただきます。)

原 章子 一ノ瀬さつき 松本 幸子 滝川 信明

＜後援会員になっていただいた方です＞

御影 保子 石崎 邦彦 高田 仁 奥野 努 長澤みどり
喫茶こっこと (田村美恵子)

＜書き損じハガキを送っていただいた方です＞

黒川 優子 岡田 明美 池田 路歌 芹田希和子 みよし茶園 西田
井戸 信次 塩田 知里 大西 聖治 東野 要子 久保江周子
国乗 きみ 市川美穂子 河村有希子 原 章子 山本かおり

郵便事情などで、お名前の漏れていらっしゃる方がありましたら、申し訳ありませんが、パンジーまで御連絡下さい。

パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号 大阪5-300551			
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人	東大阪市東鴻池町2-4-8	発行人	関西障害者定期刊行物協会
	クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818		大阪市城東区東中浜2-10-1-3
	“パンジー” FAX:0729-63-8825		緑橋グリーンハイツ1F・アド企画気付